

た時本寺近江の西教寺に墾り、當寺に位牌を置いて日牌科七十俵を受けた。後寛永十三年火災に會うて今の地に移り、寄進のことまた止んだといふ。

サイホウジ 西方寺 金澤材木町二丁目に在つて、眞宗東派に屬する。初め田町に居たが、次いで品川町に移り、明治十八年今の地に轉じた。

サイホウジ 西方寺 金澤平折町に在つて、眞宗東派に屬する。寺記に、もと河北郡不動寺村に居た。今その地に西方寺山といふものは遺址である。後森下村に移り、寛永十年金澤金屋町に、寶曆六年更に今の地に轉じたとある。

サイホウジ 西方寺 鹿島郡庵に在つて、眞宗東派に屬する。

サイホウジ 西方寺 鳳至郡中居に在つて、眞言宗に屬したが、今は存せぬ。

サイホウジ 西方寺 珠洲郡直郷に屬する部落。もと西方寺があつた。能登誌に、『往昔丈六山西方寺とて、天台宗の古刹にて、高勝寺と同じく三崎權現の別當を兼帶せし大地なりしが、永享三年本願寺巧如上人當國へ下りて宗法を勧められし時、西方寺の住持正徹といふ法師、彼宗門に歸依して弟子と成改宗し、寺號も妙嚴寺と改む。後鶴岡村へ出る。』と見える。明治八年十月西方寺・廣國・島越三村を併合して樞原と改めた。

サイホウジ 西法寺 鳳至郡大釜に在つて、眞宗東派に屬する。

サイホククウシソウ 再北遊詩草 ↓ホク

サイシヨウジ 北遊詩草。

サイミヨウジ 最明寺 能美郡若杉に在つ

て、眞宗東派に屬する。もと京都に居たが、明治十二年九月本郡小松に移り、三十九年更に今の地に轉じた。

サイモク 材木 河北郡井上庄に屬する部

サイモクチヨウ 材木町 金澤の町名。初め紺屋坂附近に居住した町民を、寛永八年今の地に轉せしめたに起り、そこに材木蔵があつたによつて町名となつた。元祿頃より上材木町・下材木町に區分せられてゐたが、今は一丁目乃至七丁目とせられる。

サイモンソン 名をエドウキンというて、英國人であつた。明治四年六月金澤藩に聘せられて、中學校に英語・數學の教鞭を執つた。サイモンソンの月俸は墨西牙銀二百弗に相當する那貨で、雇傭期限は六月であつたから、十一月中學校の閉鎖まで居た譯である。

サイヨウイブン 犀陽遺文 一冊。野口之布著。その遺文三十編を抄して印刷したものである。著者は加賀藩末の志士であるから、篇中の淺川市楠公文の如きは、最もその面目を發揮したものである。歿後明治三十四年の刊行。

サイヨウジ 西養寺 金澤上小川町に在つて、清澄山と號し、天台宗に屬する。初は越前府中に在り、開基を盛學といふ。七代眞運の時前田利長に從うて守山に移り、又富山・高岡へも從ひ、後金澤八坂に來り、慶長十七年今の寺地を賜はつたといふ。

サイヨウジマヘ 西養寺前 金澤の舊町名。文政四年二月郡地の一部を町奉行裁許とした時、河北郡卯辰村領新町の川から南を卯辰西

養寺前と稱することにした。今は上小川町に屬する。

サイライジ 西來寺 羽咋郡末吉に在つて、眞宗東派に屬する。

サイリユウジ 西龍寺 鳳至郡圓山(今西圓山)に在つて、眞宗東派に屬する。

サイリヨウアシガル 空領足輕 藩の荷物を江戸又は京等に運搬する場合に、それを保護監督して同行するを勤務とする微職である。前田利常の頃から一組を置いて、刑場に歸せしめたが、藩の中期以降には之を見ぬ。

サイレンジ 西蓮寺 金澤千日町に在つて、眞宗東派に屬する。

サイレンジ 西蓮寺 鳳至郡中居に在つて、眞宗東派に屬する。

サカイシユウ 坂福舟 珠洲郡戀路の舊家で、通稱を佐藏といふた。谷口鶴山の門人で、南北合派を描き、昭和二年十一月廿五日六十四歳にて歿。

サカアミ 坂網 江沼郡西庄の蛇路・鹽土堤片野の大池等に冬季群至する鶺鴒が、朝夕餌をあさる爲周邊の丘陵を越して翔ける際、竹に張つた綱を空中に投上げて捕獲する法で、大聖寺藩士の試みる所であつた。今も片野の大池では獵師によつて行はれる。その場所を坂場、綱を坂網、朝夕の捕鴒を朝坂・夕坂と稱する。もと前田利明の臣村田源右衛門が元祿年間に發明した方法といふが、越前では正徳三年五月足羽郡南江守村獵坂頭彌五兵衛等の口上書があつて、坂島打の創始を藩祖松平秀康の時に在りとし、現に同一の方法に據る鴨獵が御立山で行はれてゐるから、大聖寺のものは恐らく彼を學んだのであらう。こ

の方法は尙他の地方にもあるものである。

サカイシヤマ 坂石山 珠洲郡長橋の部

サカエタニ 藥谷 江沼郡那谷谷に屬する部。茂穂紀聞に、この村の宮の上の山の根に良い石材があつたから、庄村の十村次郎兵衛が石工をして切らせて見たに、石の唐戸の蓋であつたとて、石塚の露出したことを記してゐる。

サカエタニジ 藥谷寺 江沼郡那谷谷にあつた。白山記に、『三箇寺、那谷寺・温谷・藥谷。』とあり、源平盛衰記涌泉寺開創の條に、『岩本・金剛・下白山・三宮・那谷寺・藥谷寺・宇谷寺三寺四社の大衆も馳参り同意しけり。』と記する。今藥谷鎮にある寺谷はこの寺址なるべく、同村の白山社はその鎮守であつたのであらう。

サカエマチ 藥町 ↓フカミシヨウヂ 深美小路。

サガキギヨウブ 佐垣刑部 伴無理兵衛の次子。初め牧村兵部大輔に仕へたが、慶長四年兄資政と共に來つて前田利長に仕へ、三百石を賜はり、この時先主に構はれてゐたから苗字を改めた。近江大津に住し、藩の御旅屋を管したが、寛永六年歿した。子孫世々藩に仕へる。

サカキバシンメイシヤ 榊葉神明社 金澤卯辰八幡の境内に並び建てられた社殿であつた。此の社は初め菊池武勝が越中阿尾に居た時城内に祀つたもので、その後前田利長は之を海老坂八幡の社地に移し、次いで慶長四年兩社共に金澤に勧請した。榊葉神明社を菊池神明とも呼んだのはその故である。↑ラヤマ

サイ—サカ